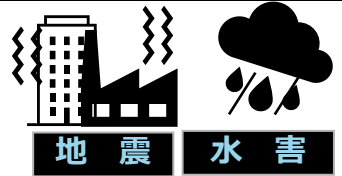


タイトル：災害発生時の対応を時系列・部署別に設定し、各従業員の対応内容を明確化



ポイント

- BCP策定と並行して、災害時の具体的な取り組み内容と手順を時系列・部署別に整理したツール（マイルストーン・タイムテーブル）を整備
- 各従業員の役割と時間軸が明確化され、危機時における対応が容易に

BCP策定のきっかけ

- 同組合は、2009年に設立。大分市とその周辺地域の生コンクリート製造販売業者14社15工場が参画し、共同販売等を実施。
- 2020年に大分県中小企業団体中央会から、大分県がBCPの推進に取り組んでいる旨の話を聞き、専門家を活用しながら全組合員・全工場が参加した計画策定に取り組むこととなった。
- 取組にあたって、最初に理事会承認を得たことで、各工場から工場長レベルの参加をスムーズに取り付けることができた。

BCP策定時の課題と解決方法

- 参加者は工場長レベルであり、多忙を極める中で全員の出席を確保することが難しかった。このため、工場長が出席できない場合、代理人が出席するなど、議論の継続性をもたせるようにした。
- 専門家からの指導にあたっては、毎回、各工場に課題提出を求めていたが、当初は期限内に提出できないところもあった。このため、参加者全員で計画が策定できるように、組合事務局からこまめに課題提出に関する確認・督促を行うことで解決した。

策定した内容

- BCPの策定と並行して、具体的な取り組み内容と手順を時系列・部署別に整理したツールとなるマイルストーン（中間目標）や時系列に全社の事業継続を俯瞰するタイムテーブルを作成した。災害があった際に、計画に沿った対応を実施する上で有効なツールとなっている。

- マイルストーンやタイムテーブルは、実施すべき作業内容を部署毎に記載しているため、各従業員がいつ、何をすれば良いかが一目で分かるようになっている。
- 実際の非常時に、計画通りに対応できるかは未だ分からないが、計画があるか無いかで非常時の対応には大きな差が出ると考えている。
- 今後は、策定した計画に基づいた訓練の実施や計画内容の全社員への周知徹底が課題。社内掲示板への掲示等、全社員の目に見え、理解できる取り組みを進めていく。

BCP策定後の効果

- 業務の棚卸しにより、災害対策だけではなく自社の業務改善における効果も実感している。
- 同組合は大分市と「災害時における消防用水及び生活水の供給」を行う防災協定を締結している。計画策定前は、実際に災害が発生した場合に誰がどのように対応するのかあいまいだったが、BCP策定によってはっきりと対応内容を決定できた。
- 策定したBCPには感染症が発生した際の対応についても定められており、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者が出た際も、BCPに沿ってスムーズに対応することができた。



実地講習会の様子



Web講習会の様子

活用施策

- 連携事業継続力強化計画
- 大分県中小企業団体中央会の令和2年度組合等BCP策定支援事業

【組合概要】

組合名：大分中央生コンクリート協同組合

所在：大分県大分市大在北3丁目356

出資金：1,400万円

従業員数：9名

業種：協同組合

組合HP：<https://oitan1.wixsite.com/oita-rmc>